

厚生労働科学研究費補助金研究事業の概要

研究事業（研究事業中の分野名）：エイズ対策研究事業

所管課：健康局疾病対策課

予算額（平成16年度）：1,755,352千円

①研究事業の目的

我が国の新規エイズ患者・HIV感染者報告数は年々増加しており、特に国内における日本人男性の同性間及び異性間性的接触による感染の拡大が懸念されている。

また、HIV訴訟の和解を踏まえ、恒久対策の一環としてエイズ治療・研究をより一層推進させることが求められている。

本事業は、エイズに関する基礎、臨床、社会医学、疫学等の研究を推進するとともに、必要なエイズ対策を行うための研究成果を得ることを目的としている。

②課題採択・資金配分の全般的状況

課題採択に当たっては、「HIV薬剤耐性対策プロジェクト(平成15年9月)」を踏まえて、副作用軽減のための研究、服薬を容易にするための研究、飲み忘れ防止のためのプログラムや機器の開発及びNGO等が医療機関と連携するモデル開発研究やエイズ動向調査体制の確立、検査ガイドラインに関する検討研究を優先した。

その他、既存の抗HIV薬の作用機序である逆転写酵素阻害剤、プロテアーゼ阻害剤以外の宿主因子等の要因を考慮した作用機序を持つ療法を長期目標とする研究や先進諸国の発生動向、調査体制、感染経路別の対策とその評価と我が国のエイズ対策に対する提言を含む研究を優先した。

(平成15年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)採択課題一覧参照)

③研究成果及びその他の効果

1. 多剤併用療法の導入によるエイズ発症阻止と死亡率の低下
2. 多剤併用療法の長期服薬に関するリスクの検討
3. ワクチン、治療新薬の開発
4. エイズ脳症の病態解明
5. HIV治療ガイドライン、母子感染予防マニュアルの作成
6. 抗HIV薬の血中・細胞内濃度測定及び薬剤耐性検査等によるモニタリングシステムと簡便な手技の開発
7. HIV・HCV重複感染時のガイドラインの作成
8. HIV感染男性、非感染女性夫婦間の生殖補助医療
9. 血友病の遺伝子治療に関する基礎的検討
10. HIV抗体迅速検査を含む利便性の高いHIV検査体制の確立、保健所等におけるHIV即日検査のガイドラインの作成
11. 非政府組織(NGO)の活用による効果的な普及啓発への提言
12. 男性同性間性的接触における効果的なエイズ予防対策
13. 若者への効果的なHIV予防介入マニュアルの作成

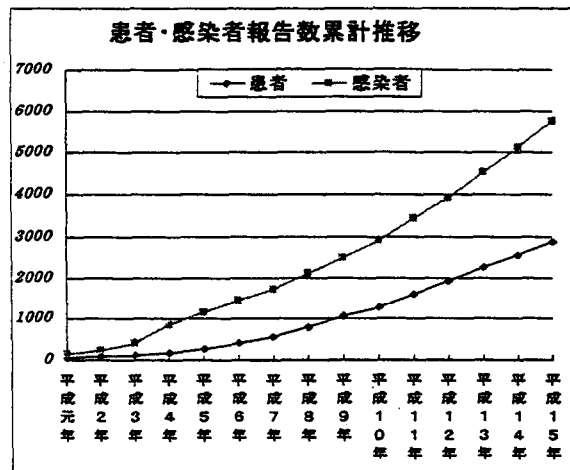
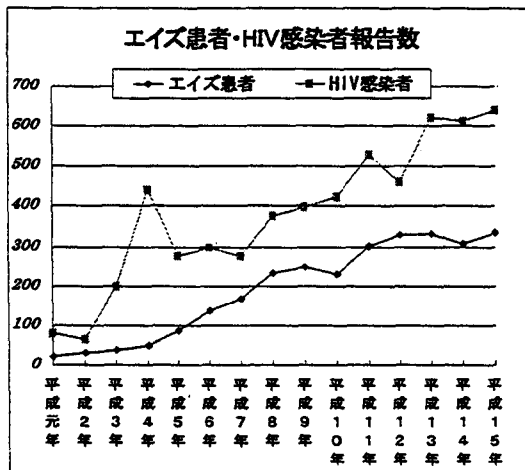
14. HIV 医療体制の現状把握と今後の在り方に関する提言

15. エイズ動向調査の情報等を用いた HIV 感染者・エイズ患者の有病数・発生数の推計

16. 他の先進諸国における HIV 感染動向の把握とその対策の比較検討

④行政施策との関連性・事業の目的に対する達成度

1997年に導入された多剤併用療法により死亡率が低下したとされる一方で、抗HIV薬の長期投与に伴う副作用や薬剤耐性ウイルスの出現が問題となっている。また、HIV感染者・エイズ患者報告数の増加が続いている（図参照）ことから、医療と予防の両者において研究の推進が必要である。なお、HIV検査体制の充実により、HIV感染者報告数は見かけ上、増加する可能性がある。



⑤課題と今後の方向性

我が国の新規エイズ患者・HIV感染者報告数は年々増加しており、特に国内における日本人男性の同性間及び異性間性的接触による感染の拡大は危機的な状況にある。特に同性間性的接触におけるHIV感染拡大は大きな問題であり、青少年対策も含め、持続的・効果的な予防対策を実施するための緊急提言が求められている。

また、エイズ医療については、最新の診断・治療法、医療体制の整備等の多方面において、患者の医療環境の向上に寄与している。ただし、多剤併用療法（HAART）が長期化するに従い、薬剤耐性ウイルスの問題が出てきており、アドヒランスの確保や日和見感染症対策の研究も今後、見直していく必要がある。

このように、HIV訴訟の和解に基づき、原告団からの要望を反映した研究を引き続き実施しており、患者の医療環境、肝炎対策及びQOL・精神衛生の向上に寄与している。また、先天性血液凝固因子障害等治療研究事業においてもエイズ対策研究と有機的に連携し、効果的に研究を推進していく必要がある。

⑥研究事業の総合評価

HIV感染症は効果的な予防ワクチンも完治する治療法も開発されていない現在、HAARTの導入により、慢性感染症の性格を帯びてきている。また、新規HIV感染するもののうち、そのほとんどが性的接触に由来するものであるため、性感染症対策に関する研究も特別に必要となる。このような状況に対応するため、本研究事業は、効果的な予防対策と疾患概念を変える治療法及びエイズ医療の体制確立について着実な結果を示しており、行政施策の推進に大きく貢献しているところである。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)採択課題一覧

単位:円

開始	終了	主任研究者	所属	研究課題名	課題番号	交付基準額	備考	
1	15	17	岡 慎一	国立国際医療センターACC臨床研究開発部長	免疫賦活を応用したHIV感染症の治療開発に関する研究	H15-エイズ-001	94,204,000	
2	15	17	井戸 栄治	京都大学ウイルス研究所助手	HIV-1遺伝子を広域に持つ新規SHIVとサルを用いたエイズ治療薬開発の研究	H15-エイズ-002	7,500,000	
3	15	17	岡田 則子	名古屋市立大学大学院医学研究科助教授	HIV感染症の治療開発に関する研究	H15-エイズ-003	15,000,000	
4	15	17	出雲 周二	鹿児島大学医学部教授	エイズ脳症の発症病態と治療法に関する研究	H15-エイズ-004	44,400,000	
5	15	17	安岡 彰	富山医科薬科大学感染予防医学助教授	HAART時代の日和見合併症に関する研究	H15-エイズ-005	60,000,000	
6	15	17	小池 和彦	東京大学医学部感染症内科助教授	HIV感染症に合併する肝疾患に関する研究	H15-エイズ-006	39,000,000	
7	15	17	稲葉 憲之	獨協医科大学産科婦人科学教室教授	HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する基盤的・臨床的研究	H15-エイズ-007	46,800,000	
8	15	17	田中 憲一	新潟大学大学院医歯学総合研究科産婦人科教授	若年婦人におけるHIV感染状況およびHIV感染と生殖医療との関連性に関する研究	H15-エイズ-008	46,800,000	
9	15	17	坂田 洋一	自治医科大学分子病態研究部教授	血友病の治療とその合併症の克服に関する研究	H15-エイズ-009	93,198,000	
10	15	17	佐多 徹太郎	国立感染症研究所感染病理部長	HIV感染予防に関する研究	H15-エイズ-010	102,000,000	
11	15	17	岩本 愛吉	東京大学医科学研究所教授	エイズ発症阻止に関する研究	H15-エイズ-011	94,204,000	
12	15	17	渡邊 俊樹	東京大学医科学研究所癌・細胞増殖部門助教授	HIV潜伏感染・再活性化のエピジェネティック制御機構を標的とした根治療法開発の基礎研究	H15-エイズ-012	14,000,000	
13	15	17	池上 千寿子	ぶれいす東京代表	HIV感染予防対策の効果に関する研究	H15-エイズ-013	14,000,000	
14	15	17	大石 敏寛	動くゲイとレズビアン会の会副代表理事	同性愛者等のHIV感染リスク要因に基づく予防介入プログラムの開発及び効果に関する研究	H15-エイズ-014	7,000,000	
15	15	17	今井 光信	神奈川県衛生研究所ウイルス部長	HIV検査体制の構築に関する研究	H15-エイズ-015	67,042,000	
16	15	17	五島 真理為	HIVと人権情報センター理事長	エイズ対策における関係機関の連携による予防対策の効果に関する研究	H15-エイズ-016	5,000,000	
17	15	17	阿曾 佳郎	財団法人性の健康医学財団	性の健康相談室を通じての市民のSTD/HIV感染調査とHIV感染予防に関する研究	H15-エイズ-017	5,000,000	

単位:円

	開始	終了	主任研究者	所属	研究課題名	課題番号	交付基準額	備考
18	15	17	木原 正博	京都大学大学院医学研究科教授	HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究	H15-エイズ-018	80,120,000	
19	15	17	武部 豊	国立感染症研究所エイズ研究センター第1室長	アジア・太平洋地域におけるHIV感染症の疫学に関する研究	H15-エイズ-019	45,000,000	
20	15	17	山本 直彦	名古屋大学大学院医学系研究科助教授	非サブタイプB型HIVにおける薬剤耐性ジェノタイプ解析アルゴリズムに関する研究	H15-エイズ-020	9,000,000	
21	15	17	石川 信克	財団法人結核予防会結核研究所副所長	アジア太平洋地域における国際人口移動から見た危機管理としてのHIV感染症対策に関する研究	H15-エイズ-021	7,000,000	
22	15	17	木村 哲	国立国際医療センターACCセンター長	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	H15-エイズ-022	100,240,000	
23	15	16	星野 忠次	千葉大学大学院薬学研究部助教授	計算機を活用したHIVの薬剤耐性評価	H15-エイズ-023	9,000,000	
24	15	15	草野 秀一	聖マリアンナ医科大学助手	HIVによる新しい宿主免疫回避機構に関する基盤研究	H15-エイズ-024	10,500,000	
25	15	15	山本 直樹	国立感染症研究所エイズ研究センター長	エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究	H15-エイズ-025	16,000,000	
26	14	16	秋山 昌範	国立国際医療センター情報システム部 部長	HIV診療支援ネットワークを活用した診療連携に関する研究	H14-エイズ-001	8,000,000	
27	14	16	市川 誠一	神奈川県立衛生短期大学教授	男性同性間のHIV感染予防対策とその推進に関する研究	H14-エイズ-002	38,000,000	
28	14	16	樽井 正義	慶應義塾大学文学部教授	個別施策層に対する固有の対策に関する研究	H14-エイズ-003	12,000,000	
29	13	15	杉浦 互	国立感染症研究所エイズ研究センターグループ長	薬剤耐性のモニタリングに関する技術開発研究	H13-エイズ-001	25,000,000	
30	13	15	佐藤 裕徳	国立感染症研究所遺伝子解析室主任研究官	HIV及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究	H13-エイズ-002	84,000,000	

1,199,008,000

厚生労働科学研究費補助金研究事業の概要

研究事業（研究事業中の分野名）： 肝炎等克服緊急対策研究事業
所管課： 結核感染症課
予算額（平成16年度）： 742,530千円
①研究事業の目的 肝炎ウイルスの病態及び感染機構の解明並びに肝炎、肝硬変、肝がん等の予防及び治療法の開発等を目的とする。
②課題採択・資金配分の全般的状況 <ul style="list-style-type: none">・肝炎ウイルス等について、その病態や感染機構の解明を進めるとともに、肝炎、肝硬変、肝がん等の予防、診断及び治療法等に資する研究を進めている。（別紙課題一覧参照）・平成15年度は本事業の2年目ということで、新規課題のための枠の確保が困難であったが、国内での感染事例が報告される等、国民の関心を集めたE型肝炎について、独立の研究班を組織し取り組むこととした。
③研究成果及びその他の効果 <ul style="list-style-type: none">・透析患者集団におけるHCV感染の実態を把握し、透析医療施設における感染予防対策策定のための基礎となるデータを提示した。・チンパンジーを用いた感染実験を行い、感染成立に必要な最小のHCV量、HCV感染初期におけるHCVの増殖速度を明らかにした。・国内におけるE型肝炎症例から得られたHEV株を解析し、「日本固有株」と呼び得るHEV株の存在を明らかにした。・日本におけるC型慢性肝炎の治療水準を向上させるため、治療の標準化に関するガイドラインを作成した。・遺伝子発現パターンに基づく肝障害度のスコア化に世界で初めて成功した。・肝がんに対する生体肝移植の再発率等の成績を取りまとめ、15才以上の肝がん症例に対する生体肝移植への保険適応を検討する際の基礎資料を提供した。・HCV感染モデルを用いた抗ウイルス剤の迅速かつ客観的評価システムを作製した。・モデル県を設定し、検診等により発見される肝炎ウイルスキャリアの健康管理、治療ネットワークの構築を試みた。・慢性肝疾患患者の健康管理及び適切な治療のための病診連携を目的とした健康管理手帳を作成した。・歯科用器具のうちで滅菌できないものに関して、具体的なウイルス除去法を確認した。
④行政施策との関連性・事業の目的に対する達成度 <ul style="list-style-type: none">・C型肝炎検診の効果的な実施、検診により発見された肝炎ウイルスキャリアの健康管理や治療のためのシステムの確立等、老人保健事業等の行政施策と密接に関係した研究成果を挙げている。・肝炎ウイルス患者の標準的な治療ガイドラインの確立、肝障害度のスコア化、生体肝移植の再発率等、肝炎、肝硬変、肝がんの医療の向上に資する成果を挙

げた。

⑤課題と今後の方向性

- ・C型肝炎ウイルス感染による長期の経過、予後の解明、透析施設、歯科診療、母子保健による感染など疫学的に解明すべき点が多い。
- ・抗ウイルス剤、PEGインターフェロンなど新しい薬剤の実用化を踏まえ、標準的な治療ガイドラインについても適宜改訂していくことが求められる。
- ・肝臓に至った症例に対する肝移植も含めた治療法の進歩も待たれる。
- ・E型肝炎については、検査技術の向上等により、多くの研究成果が期待できることから、感染防止対策へも反映させていくことが求められる。

⑥研究事業の総合評価

- ・肝炎、肝硬変、肝臓の一連の病態について、遺伝子レベルの基礎的な研究から、検診事業の効果的な実施等の行政研究、標準治療ガイドラインの策定等の臨床研究まで、総合的に多くの成果を挙げている。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業)採択課題一覧(追加交付後)

	No.	事業名	開始	終了	主任研究者	フリガナ	所 属 施 設	職 名	研 究 課 題 名	交付決定額 (単位:千円)
指定	1	H14-肝炎-1	指定		倉田 毅	クラタ ケン	国立感染症研究所	企画調整主幹	肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究	7,000
課新 題規	2	H15-肝炎-2	15	17	三代 俊治	シロ シュンジ	東芝病院研究部	部長	本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究	24,000
継 続 課 題	3	H13-肝炎-1	13	15	林 紀夫	ハヤシ ノリオ	大阪大学大学院医学系研究科	教授	C型肝炎ウイルスの感染による肝炎・肝硬変及び肝がん発生等の病態の 解明に関する研究	50,000
	4	H13-肝炎-2	13	15	吉澤 浩司	ヨシザワ コウジ	広島大学大学院医歯学総合研究所	教授	C型肝炎の自然経過および介入による影響等の評価を含む疫学的研究	60,000
	5	H13-肝炎-3	13	15	熊田 博光	クマダ ヒロミツ	虎の門病院消化器科	部長	C型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究	55,000
	6	H13-肝炎-4	13	15	鈴木 一幸	スズキ カズユキ	岩手医科大学第一内科	教授	肝がんの発生予防に資するC型肝炎検診の効率的な実施に関する研究	30,000
	7	H13-肝炎-5	13	15	川崎 誠治	カワサキ セイジ	順天堂大学医学部第二外科	教授	肝がんに対する肝移植の有効性とその適応基準の確立に関する研究	13,000
	8	H13-肝炎-6	13	15	森 正樹	モリ マサキ	九州大学生体防御医学研究所	教授	慢性肝障害合併肝癌の治療適応決定のための肝炎・肝硬変DNAチップ の開発	50,000
	9	H13-肝炎-7	13	15	小俣 政男	オマタ マサオ	東京大学大学院医学系研究科	教授	肝炎対策としての肝がんの研究	40,239
	10	H13-肝炎-8	13	15	橋田 充	ハシダ ミツル	京都大学大学院薬学研究科	教授	新しい肝がん発症予防法および治療法の開発に関する研究	15,000
	11	H13-肝炎-9	13	15	奥坂 拓志	オクサカ タクシ	国立がんセンター中央病院内科	医長	既存の肝がん治療法の有効性に関する研究	12,000
	12	H14-肝炎-2	14	16	八橋 弘	ヤツハシ ヒロシ	国立病院長崎医療センター 臨床研究センター	部長	肝炎ウイルス等の標準的治療困難例に対する治療法の確立に関する研究	40,800
	13	H14-肝炎-3	14	16	石井 裕正	イシイ ヒロマサ	慶應義塾大学医学部 消化器内科学	教授	末期肝硬変に対する治療に関する研究	23,000
	14	H14-肝炎-4	14	16	門田 守人	モンデン モリト	大阪大学大学院・医学系研究科 病態制御外科	教授	進行肝がんに対する集学的治療に関する研究	44,000
	15	H14-肝炎-5	14	16	藤原 研司	フジワラ ケンジ	埼玉医科大学医学部	教授	肝がん患者のQOL向上に関する研究	14,000
	16	H14-肝炎-6	14	16	加藤 宣之	カウ ノブユキ	岡山大学大学院 医歯学総合研究科	教授	肝炎ウイルスによる宿主細胞がん化メカニズムの解明に関する研究	22,000
	17	H14-肝炎-7	14	16	油谷 浩幸	アブラタニ ヒロユキ	東京大学 国際・産学共同研究センター	教授	新規肝がん関連遺伝子の網羅的探索とDNAチップを用いた遺伝子の 相互関連性に関する研究	29,000
	18	H14-肝炎-8	14	16	小池 和彦	コイケ カズヒコ	東京大学医学部感染症内科	助教授	トランスジェニック・マウスを用いた肝発がんメカニズムの解析	17,000
	19	H14-肝炎-9	14	16	川本 俊弘	カワモト シヒロ	産業医科大学医学部衛生学講座	教授	職場における慢性肝炎の増悪要因(化学物質暴露等)及び健康管理に 関する研究	6,000
	20	H14-肝炎-10	14	16	菊地 秀	キクヂ シュウ	国立郡山病院	院長	輸血後肝炎に関する研究	10,000
	21	H14-肝炎-11	14	16	山崎 親雄	ヤマザキ チカオ	社団法人日本透析医会	会長	血液透析施設におけるC型肝炎感染事故(含:透析事故)防止体制の 確立に関する研究	14,000
	22	H14-肝炎-12	14	15	古屋 英毅	フルヤ ヒデキ	日本歯科大学歯学部	教授	歯科診療におけるC型肝炎の感染リスク低減に関する研究	6,000
	23	H14-肝炎-13	14	16	白木 和夫	シラキ カズオ	鳥取大学医学部小児科学	名誉教授	C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	14,000
	24	H14-肝炎-14	14	16	松浦 善治	マツウラ ヨシハル	大阪大学微生物病研究所 エマージング感染症研究センター	教授	慢性C型肝炎に対する治療用ヒト型抗体の開発に関する研究	24,000
									合 計	620,039